

総合計画審議会での論点整理

【論点整理における事務局の考え方】

- 第3～6回会議のご意見のうち、審議会の総意とした意見と委員の個別意見について整理を行いました。（詳細は資料3）
- 答申文案作成の基礎情報とするため、ご意見等のうち、継続課題や事務局が確認したいご意見を本資料にて取り扱わせていただきます。

総合計画審議会（第3～6回会議分）での意見数

種別	個数
審議会の総意とした意見	26
委員の個別意見	181
質問	30
計	237

→右記ご意見のうち、
継続課題等の意見を確認します

① 子育ち

- 「施策12_子育ち」との表現はその意図は理解できる一方で、市民の理解が得られにくい可能性があり、より分かり易い表現などの工夫が必要。【CN3-15】
- 「目指す姿」においては「子育ち」という表現で良いと感じる部分がございます。しかしながら、詳細施策1202・1203の施策を確認すると、「子育ち」というタイトルがややしっくりこない印象を受けております。全体を通じて見ますと、「子育ち」という表現と施策内容との間に少し隔たりを感じております。【CN5-40】

【市の考え方】

- 子育てをしている当事者への支援に関する施策を「子育て支援」、子ども自身が主体的に生きる力を身につけるための施策を「子育ち」と整理したものです。「子育ち」という言葉は、現状では一般的ではないかも知れませんが、子どもの育ちにかかわる施策等に使用されるケースも増えてきていると認識しています。

② 施策間連携

- 各施策の不可分や副次的に関係している部分などを、視覚的に表現（施策○は施策△と□□の部分で関連）でみると、気づきの視点が得られ議論が具体化する。【CN3-16】

【市の考え方】

- 各施策間での連携や関係性を整理し視覚化することで、計画の具体性や施策を超えた連携の促進に寄与する可能性が期待できますが、一方で各施策の固有の役割や目的を複雑化させる可能性を懸念しています。また、副次的な関係性を網羅的に記載できるかについても、慎重な検討が必要と考えています。
- つきましては、【CN4-58, 59】における部署間連携の記載検討と合わせて、「計画全体の推進」の視点で表現を工夫したいと考えています。

③ KGIとKPIについて

- KGIの項目数が多いため、類似のものをまとめるなどの対応を検討されたい。【CN3-19】
- 「合計特殊出生率」をKGIとして設定すべきか検討願いたい。小田原市だけでコントロールすることが難しく、希望的観測のもとで「増えた方がよい」との考えで設定するのは適切ではない。今後数値はさらに減少していくことが想定され、現状を踏まえ真に設定すべきか再考すべき。【CN3-23】
- 「資源化率」について、循環型社会形成の分野における政策のトッププライオリティは「リデュース」であるため、廃棄物を出さないことが重要。「廃棄物排出量の削減」に焦点を当てた指標を設定していただきたい。「施策10_生活環境保全」の「燃せるごみ排出量」との入れ替えや、当該施策内に「資源化率」を入れるなど、まずは発生抑制に関連する指標を優先して設定検討いただきたい。【CN3-28】
- 文化的部分に関してですが、このKGIの方で文化事業への参加人数が記載されているということです。ですが、ここに記載されているKGIに繋がる具体的なKPIについては、現在の状況だとどのようにKGIに結びついていくのか、その連携をどのように考えるのが良いのかという点について疑問を持ちました。全く別の要素としてKGIが設定されているので問題ない、というような認識でよろしいでしょうか。（第7回No.8）

【市の考え方】

- 上記のご意見のほか、個別のKGI・KPIに多くのご意見をいただきました。
- KGIとKPIのより適切な関係性の構築、全体の設定数の調整や入れ替えなどを含め検討を行います。

④ 経済政策（施策16_地域経済振興、協働PJ5_地産地消による地域経済循環）

- 全体的な内容を拝見すると、まずパンチが効いていないと感じられます。これから3年間、さらにその先を見越した産業政策や経済政策として、何を具体的に目指すのかが明確に記載されていないように思われます。特に、「目指すべき姿」の箇所においては、地域産業の創業をしっかり進めていくという方向性を、もっと明確かつ力強く示すべきではないかと思います。現状では、この部分に力強さが不足している印象を受けます。
- 需要喚起と地域内循環だけでは地域経済を完全に回すことはできません。外部経済を取り入れることが重要であり、例えば観光産業は外部からの資金を地域内に呼び込むことで産業や雇用を生み出す仕組みになっています。そのため、外部経済を積極的に取り入れる姿勢を施策において前面に打ち出していくだけだと思います。
【CN6-59】
- これらの要素を視野に入れ、関連項目について全面的な修正をお願いしたいと考えております。現状と将来を見据えた要素がこの内容にほとんど盛り込まれていないというのは、非常に惜しいことだと思います。これらを踏まえた上で、ぜひさらなる改善をお願いしたいと思っております。
【CN6-63】
- 政策に関わる方々の協働に焦点を当て、福祉の分野から新たな活動を作り出したり、交通の課題から新しい取組を進めることが重要だという考え方です。産業というものは産業界だけが担うものではなく、既存の枠組みや日本の中にある様々な課題から、新しい地域産業を生み出していく視点が必要です。したがって、産業の捉え方そのものについて、もっとしっかりと考える必要があるのではないかと思いました。
【第7回No.35】

【市の考え】

- 事業者が地域経済の重要な担い手であることに加え、市民や市等の役割もあることから、地域が一体となって経済循環を図ろうと「小田原市地域経済好循環推進条例」を制定し、この条例に基づき、市では、地域経済振興に向けた基本方針で「地域資源を最大限に生かした『需要喚起』と『地域内循環』による経済の活性化」を掲げています。
- 具体の取組として市内事業者の成長促進、誘客の推進、企業誘致の推進、付加価値の向上などに取り組む際には、ご指摘いただいたように新しい視点で産業を捉え、取り組んでまいりたいと考えています。
- また、外部経済の取り入れ等についても行政案において可能な限り対応して参りますので、御理解いただきますようお願いいたします。

⑤ 評価

【市の考え方】

- 第3回会議にて、今後の評価方法について事務局案を提示させていただきました。その際、評価方法については、第1期実行計画行政案の議論の後となったことから、今回、再度論点とさせていただくものです。
- 確認させていただきたい論点としては、次のとおりです。

【論点①】 行政案P14「2 施策や事業の評価による進行管理」に対し、答申文案に記載すべき意見があるか

【論点②】 外部評価における総合計画審議会の今後の関わり方について、審議会の意向を確認したい

○行政案P14抜粋

2 施策や事業の評価による進行管理

第1期実行計画では、施策や事業の着実な実施と継続的な改善を図るため、PDCAサイクルに基づいた進行管理を導入していきます。市が実施する事業を毎年度評価することで事業の有効性や妥当性等を点検し、計画の進捗を管理します。

計画の策定（Plan）を起点として、初年度における事業推進（Do）を通じて各事業を具体化し、以降の年度においては、実施状況の把握や課題の抽出を行う進捗確認（Check）を行います。進捗確認の結果を踏まえ、事業の改善・見直しや新たな政策立案（スクラップアンドビルト）を検討するなど、翌年度の予算編成等に連動する改善（Action）を通じて、計画全体の質的向上を図ります。

このように、年度ごとの成果や状況を確認しつつ、国や社会情勢の変化などに合わせて施策の方向性を見直していくなど、柔軟かつ戦略的にまちづくりを進めています。

また、計画期間内における「まちづくりの目標」の進捗を測ることを目的にそれぞれの目標で掲げている「まちの姿」ごとの重要業績目標達成指標（KGI）を次のとおり設定します。

○第3回会議資料6_P7

5 評価方法について

- 第6次総合計画評価での成果と課題を踏まえ、今後の評価方法の事務局案を提示する。
- 主に、外部評価として総合計画審議会の今後の関わり方について、審議会の意向を確認したい。

【事務局案】

<共通事項>

- 第6次総合計画評価同様、庁内での内部評価と総合計画審議会による外部評価を実施する。
- 内部評価は、施策における成果目標（アウトカムKPI）の達成状況等を確認するため毎年度実施し、例年実施している個別事業の事務事業評価（アウトプットKPIの確認など）と同時実施を検討する。



<外部評価案①> 毎年度実施

- 6次総合計画評価同様、総合計画審議会による外部評価を毎年度実施する。

<外部評価案②> 計画策定年度のみ実施

- 庁内及び審議会の負担等を考慮し、評価作業の簡素化を図るため、計画策定年度のみ実施する。（次回は令和10年度に実施予定）

<外部評価案③> 計画策定年度+書面開催等

- 計画策定年度（R10）に加え、内部評価結果を総合計画審議会委員あてに送付し、毎年度書面開催等により意見聴取を実施する。